

日ラグ協発第 18-771

平成 30 年 12 月 20 日

関東ラグビーフットボール協会

会長 水谷 眞 様

関西ラグビーフットボール協会

会長 坂田 好弘 様

九州ラグビーフットボール協会

会長 森 重隆 様

(公財)日本ラグビーフットボール協会

専務理事 坂本 典幸



プレーヤーモニタリング機器に関する通達

拝啓、平素は日本ラグビーの普及発展につきまして多大なるご尽力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、プレーヤーが着用するプレーヤーモニタリング機器につきまして、ワールドラグビーよりこのほど、下記の通り通達が出されました。日本協会でもこれを受け、ここに通知いたします。

貴協会におかれましても加盟都道府県協会、および、各チームに周知徹底いただけますようよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

プレーヤーモニタリング機器に関するワールドラグビー通達文書（和訳）

2017年5月に行われたワールドラグビー理事会会議での決定事項に従って、プレーヤーにプレーヤーモニタリング機器(PMDs)の着用を許可する試験実施ルールは2018年12月31日をもって終了することを伝達する。

今後は、PMDsの使用が競技規則第4条において認められることになり、2019年1月1日以降、着用される機器はすべて競技規則第4条(および、競技に関する規定第12条)に準拠していなければならない。添付の文書(英語版、フランス語版、スペイン語版)に、今回の変更に伴う影響について概略が記されている。

各協会および地域団体は、本文書をすべての代表カテゴリーのチームマネージャーと、管轄内のクラブチームに共有すること。

PMDs、または、添付文書に関する問い合わせは、マーク・ダグラス (marc.douglas@worldrugby.org)、または、ワールドラグビーのテクニカルサービス部門まで、連絡すること。

※注記

なお日本の国内大会については、2019年4月より適用することといたします。

以上

プレーヤーモニタリング機器 (PMD)

試験実施の終了

競技規則においてプレーヤーモニタリング機器が導入され、過去数年間にわたって行われてきた試験実施ルールは2018年12月31日をもって終了することになります。

上記の日以降、試験実施ルールは無効となります。これにより：

- ・ ワールドラグビーの承認ロゴのある機器だけが専用の承認 ID を割り当てられ、その ID が機器に記載され、また、ワールドラグビーのプレーヤーウェルフェアのウェブサイトにリスト表示されます。試合中にプレーヤー、または、チームが使用できるのはこれらの機器だけです。
- ・ 機器は必ず、ワールドラグビー競技規則第4条、および、ワールドラグビー競技に関する規定第12条に準拠した方法で着用しなければなりません。
- ・ 不適合機器の使用を可能にするために協会に付与されていた免責は、今後は無効となります。
- ・ いかなる PMD 機器の使用に際しても、プレーヤーの同意書は今後不要となります。プレーヤーは、ワールドラグビーに承認された機器であればどれでも、相手チームやチームメイトに相談しなくても使用することができます。
- ・ 胸部に取り付ける心拍数モニターの機器の使用は、今後認められません。

現在機器を使用しているチームは、機器の供給業者に連絡し、使用中の機器がワールドラグビーの承認されたものかどうか把握してください。承認されたものでない場合、それらの機器は2018年12月31日以降の試合で使用することはできず、新たに承認されたものを入手して頂く必要があります。



今から機器の購入を検討しているチームは、購入を検討している機器がワールドラグビーに承認されたものであり、ワールドラグビーの承認ロゴの入ったものであることを確かめるようにしてください。

すでに性能仕様を満たした機器を持っている製造業者は、いくつかあります。業者のリストは、以下のリンクをご参照ください：

(現在所有、使用している、あるいは、販売やリースに出されている)機器が承認されたものかどうかわからない場合は、以下のワールドラグビー担当者に問い合わせて、正しい情報を確認してください。

<https://playerwelfare.worldrugby.org/?documentid=187>

詳細は、ワールドラグビーのプレーヤーウェルフェアのウェブサイトにてご確認頂けます：<https://playerwelfare.worldrugby.org/>

詳しいお問い合わせは、下記までご連絡ください：

Marc Douglas (marc.douglas@worldrugby.org)

ワールドラグビー 調査、芝、用具担当マネージャー